

# まちのエンガワ 通信 No.71

中野まちのエンガワ・プロジェクト、なかの育フェスへのお問合せ●Eメール/nakanoikufes@gmail.com●Tel090-4712-9319(中村)

第8回

## なかの育フェス

### 2020年6月27日(土)~28日(日)

場所/なかのZERO西館

1F 美術ギャラリー1・学習室AB

2F 美術ギャラリー2・学習室1・和室

主催/中野まちのエンガワ・プロジェクト

なかのZERO 指定管理者

内容/ 子育て支援コーナー

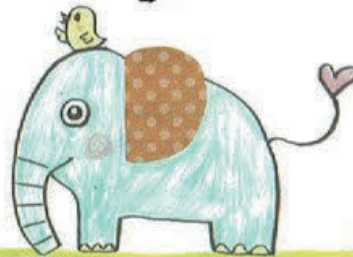
アートワークショップ

まちづくり・中野の歴史

乳幼児親子のひろば

あそび場

出展団体の  
参加募集中  
です。



#### なかの育フェスとは？

●毎年6月に子ども・子育ての楽しい街をめざしているイベント。まずは6年間続けることで発足し、6年間無事終了。新規で運営委員が加わって再出発。新生なかの育フェスとして、8年目(第二期)となる。●なかのZERO西館を会場に、子育て支援、アート、パフォーマンス、遊び等の内容で様々なコーナー、ワークショップ、講座が並ぶ複合的なイベント。●関わるメンバーや参加団体はおよそ40。子育て当事者のみならず、様々な年代で、立場の違うメンバーが支えるイベントとなっている。

## なかの育フェス出展参加 募集受付中!

- 現在、出展参加団体、個人を募集しています。募集内容は①出展ブース(団体の机を置く)②一定の時間の中で講座やワークショップ、パフォーマンスを行う。
- 申し込みする際は、まずなかの育フェス専用のG



hello!

メールにご連絡下さい。開催要項、下書き、控用の申し込み用紙、参加申し込みフォームのアドレス等を返信いたします。●初参加で、これまで育フェスの説明会、面接等を受けていない場合は同様に、Gメールでお問い合わせください。●現

### 第八回なかの育フェス

参加団体  
連絡会

通常通り  
会議が  
できると  
いい  
ですね。



4月8日(水)

なかのZERO 西館学習室2  
午後7時~午後9時

お問い合わせ●nakanoikufes@gmail.com  
090-4712-9319(中村)



エカイエは複数の人達が一緒に支えて創る「カフェ」。育フェスやエンガワ等のコミュニティの活動の拠点にもなっています。

●中野区上高田1-34-1  
電話03-3360-3330



保存版

開催までの日程はこれ!!

日時と場所をチェック!!

3月

出展参加募集締め切り3月25日  
(※15日締め切りを10日間延長)

4月

●参加団体連絡会(初顔合わせ)  
4月8日(水)夜間のみ/学習室2

5月

●参加団体連絡会(最終顔合わせ)  
5月27日(水)夜間のみ/学習室2

6月

\*準備WS  
6月21日(日)午前~夜間/美術ギャラリー1  
●事前準備  
6月26日(金)午前~夜間  
/美術ギャラリー1、2  
/学習室1  
/学習室A、B

※参加団体は「●」には必ず出席が参加条件になりますので、ご注意ください。

今回は、両日とも、「夜間」のみ

在、新型コロナウイルスの動向を見据えながらの状況となりますが、準備は例年どおり進めています。●出展団体が出そろったとこ

ろで、新しい全体企画にあわせてボランティアの募集も行います。今後、詳しい内容は Facebook 等をご参考下さい。

## 育フェス内で パペット達が活躍!?

●今回の新しい取り組み「全会場をつなぐ!」企画の第一弾「(仮)旅するパペット劇場」が登場します。いくゾウ広場をスタートにパペット劇場が各会場で開催されます。最後は必ず



Pupeet!



「続きは〇〇時から□□会場です!」●主人公は「桃太郎風の男の子(らしい)」。各会場を巡って仲間を集める。その目的は??まだ謎。●育フェス開催前に、自分のパペットは作れ、誰でも劇にも参加できます。

一億総パペット活躍時代にささぐ、知っても得にならない連載

## 人形劇はヤバイ!?

記/中村信子  
どんきい劇場パペットワークショップ

3

自分が見聞きしたり、体験した「人形劇」の事を、なんとなく書き綴っています。諸説あるのでご容赦のほどを。

### 「片手」はあるが、「両手」はある?



NHKの初期の連続テレビ人形劇も、両手づかい人形が活躍していた。今、当時の映像を見ると商売柄、難しい人形を巧みに動かす技術に感心してしまう。だが、当時の子どもだった私には、ある種の「古臭さ」を感じていた。それはナンバ歩きの子供のせいかもしれない。

ある講演会で海外の資料が紹介され、人形の構造別の分類が掲載されていた。「片手づかい人形(ギニョール)」「棒づかい人形」「糸操り人形」と並んでいる。私のつたない知識の中で、確か「両手づかい人形」というのもある気がして、講師に質問した。

「両手づかい人形はどこに分類されますか?」

講師はこう答えた。

「それは私が発明したものです。」

長年劇団ブークの主宰者をされていた、川尻泰司氏の言葉だった。日本に昔からある抱えづかいの方式と片手づかいの方式を組み合わせ、昭和9年に創案されたとか。演者はずっと両手を上げた状態になるので、演技するには修行が必要。得意技は「ナンバ」。歌舞伎の六方に見られる手足両方同じ側を動かす歩き方、農耕民族独特の動き。運動会の行進で注意されるアレだ。

